

勝田高校図書館だより

平成30年度 第7号

平成30年10月31日発行



夏の名残のような気温を記録したかと思えば、最近は朝晩肌寒さを感じるようになりました。皆さんも、冬の制服がやっと体になじむ陽気になったのではないのでしょうか。10月は変化が激しく、また行事も多い忙しい月でした。また、1年生は文理選択を考える時期となり、迷いや不安を感じているかも知れません。2年生は、部活動の主力となり、秋の大会や芸術祭などを迎える責任を感じていることでしょうか。また、進路も現実的に考える一方、修学旅行を控え、何かと落ち着かない毎日を送っているのでしょうか。3年生は模擬試験ラッシュの中、一方で推薦入試の準備に奮闘している友達も目に入り、日々心が波立っているかも知れません。気候も心も変化が激しい季節です。しかし、今は「収穫の秋」です。皆さんもより多くの物を収穫できるよ

う、少し苦しいことにも逃げずに向き合って力を尽くし、手応えを感じる経験をしてほしいと思っています。

ところで、10月27日から11月9日までは「読書週間」です。読書推進運動協議会のホームページでは、「読書週間」の歴史を、「終戦まもない1947（昭和22）年、まだ戦火の傷痕が至るところに残っているなかで『読書の力によって、平和な文化国家を作ろう』という決意のもと、出版社・取次会社・書店と公共図書館、そして新聞・放送のマスコミ機関も加わって、11月17日から、第1回『読書週間』が開催されました。……翌年の第2回からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）と定められ、この運動は全国に広がっていきました。」と紹介しています。行事や勉強に追われ落ち着かない「秋の夜長」の心を、一冊の本が静めてくれるかも知れません。また、明るい学校の図書館には新たな言葉との出会いもあります。今年の標語は「ホッと一息 本と一息」です。心と体が少しだけ思うようにならない気がする時は、気軽に「ホッと一息」しに、静かな図書館においでください。ゆっくり深呼吸ができるかも知れませんよ。



- ＊11月のカウンター当番は、1年生が担当します。
- ＊新着本のコーナーが、移動しています。詳しくは委員に確認してください。
- ＊修学旅行にちなんで、沖縄に関する書籍を展示しています。

入り口の扉の右側の展示コーナーと、カウンター正面左側の書棚をご覧ください。基地問題、戦争、沖縄が舞台となった小説、言葉、そして三線や料理まで、様々な沖縄を知り、親しめるコーナーを用意しています。

☆前期貸し出しランキング☆



○図書の一部

第1位	『かがみの孤城』	辻村深月	9回
第2位	『羊と鋼の森』	宮下奈都	7回
	『コーヒーが冷めないうちに』	川口俊和	7回
第3位	『青くて痛くて脆い』	住野よる	5回
	『忍物語』	西尾維新	5回

○クラスの部（合計貸し出し冊数）

第1位	3年5組	186冊
第2位	2年3組	119冊
第3位	1年1組	68冊



十月のうた（唐詩）

静夜思 李白
 牀前看月光 疑是地上霜
 挙頭望山月 低頭思故郷



〈書き下し〉	静夜思	李白
	牀前月光を看る	疑ふらくは是れ地上の霜かと
	頭を挙げて山月を望み	頭を垂れて故郷を思ふ
〈現代語訳〉	静かな夜のものの思い	李白
	寝台の前まで差し込んだ月の光を見つめる。	
	ふと思った。（その白い光は）地上に降りた霜ではないかと。	
	顔を上げては山の上の月を眺め、	
	顔を伏せては故郷を思いやる。	

この季節になると、月を愛し好んで詩に詠んだ、中国を代表する詩人「李白」を思い出します。李白は、酒に酔って水面に浮かぶ月をとらえようとして溺死したという伝説があるくらい、酒を愛し月を愛し、自由に豪放磊落に生きた詩人です。その魅力は、鋭い感性や語感の豊かさ、内容の多彩さ、表現の率直さ等多く挙げられます。「詩仙」・「天上の謫仙人」と言われる天才肌の詩人です。リズムがよく、思わず口ずさみたくなる詩に心惹かれる読者は少なくありません。この詩も、読んでいだけで白く冴え冴えとした美しい月の光が見える気がします。秋の夜は、望郷の思いも孤独もより一層深まるものです。けれども、それもまた人間だけに与えられた“心”故の試練なのかも知れません。辛いとき、悲しいとき、独りである自分を強く感じるとき、そんな心細さを支え、自分だけではないと思わせてくれるものは、人ばかりでなく文学の場合もあると思います。秋の夜長は感傷的になりがちではありますが、私達人間は千年以上も前から同じような思いを抱えていると思うだけで少し励まされるような気がします。